



家畜衛生情報

香 川 県 畜 産 課
 TEL(087)832-3426~8 FAX(087)806-0204
 香川県東部家畜保健衛生所
 TEL(087)898-1121 FAX(087)898-9558
 香川県西部家畜保健衛生所
 TEL(0877)62-0020 FAX(0877)62-3299

高病原性鳥インフルエンザ及び低病原性鳥インフルエンザに関する特定家畜伝染病防疫指針が改正されました



国が鳥インフルエンザの発生予防やまん延防止の対応についてまとめた、「高病原性鳥インフルエンザ及び低病原性鳥インフルエンザに関する特定家畜伝染病防疫指針」（以下指針）が改正され、9月9日に公表されました。主な変更点を紹介します。

1 外国人技能研修生や留学生への周知・指導

農林水産省は、鳥インフルエンザの発生国から入国し、畜産関係施設に出入りする外国人技能研修生や留学生に対して、鳥インフルエンザ発生予防に必要な情報を周知する。また、都道府県は、受入先となる農場等へ飼養衛生管理の遵守を周知・指導することにより、海外からの鳥インフルエンザ侵入リスクの低減を図る。

2 発生農場の作業時間について

24時間以内の殺処分、72時間以内の死体の処理は、肉用鶏平飼いで5~10万羽、採卵鶏ケージ飼いで3~6万羽を想定しており、農場に飼養規模や鶏舎の構造等により作業時間は異なるため、作業者の安全と健康状態に配慮して、現実に即した作業を行うことが明記された。

3 モニター家さんの検査について

発生農場が経営再開するためには、1家さん舎あたり30羽以上のモニター家さんを配置し、導入した日から14日後に検査を実施することが明記された。

4 食鳥処理場で高病原性鳥インフルエンザが発生した際の対応

食鳥処理場において高病原性鳥インフルエンザが発生した場合に家畜衛生部局と公衆衛生部局が連携し対応することや、農場での発生に準じた防疫措置を実施するよう明記された。

○この新しい指針は、農林水産省のホームページでご覧いただけます。

http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/tori/pdf/150909_hpai_guide.pdf

疾病情報

家畜伝染病・伝染性疾病発生状況(近県)

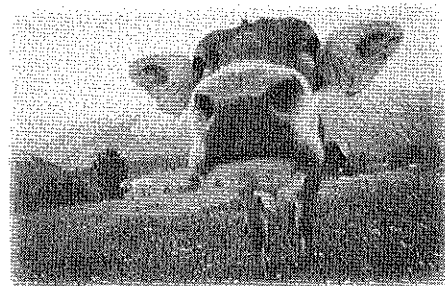
疾病名	畜種	発生場所	発生時期	発生戸数	発生頭羽数
ヨネ病(法定)	牛	高知県	H.27.8月	2	2
牛白血病(届出)	牛	兵庫県、岡山県、広島県、鳥根県 山口県、愛媛県、徳島県 高知県、香川県	H27.7~H27.8月	63	69
牛ウイルス性下痢粘膜炎(届出)	牛	鳥取県	H27.8月	1	3
ネオスポラ症(届出)	牛	広島県	H27.7月	1	1
破傷風(届出)	牛	岡山県	H27.7~H27.8月	2	2
サルモネラ症(届出)	豚	愛媛県	H27.7月	1	1
豚丹毒(届出)	豚	兵庫県、広島県、鳥取県、鳥根県 愛媛県、徳島県、香川県	H27.7~H27.8月	13	14
伝染性ファブリキウス囊病IBD(届出)	鶏	岡山県	H27.7月	1	4
鶏痘(届出)	鶏	愛媛県	H27.7月	1	5
あひる肝炎(届出)	あひる	兵庫県	H27.8月	1	4
パロア病(届出)	蜜蜂	兵庫県	H27.7月	1	1
レプトスピラ症(届出)	犬	広島県	H27.7月	1	1

牛白血病対策について

先日、牛白血病研修会が高松市内で開催され、そこで、感染拡大防止対策についての講演がありましたので紹介します。

優先順位

1. 感染牛はできるだけ速やかに淘汰する。
2. 感染牛と非感染牛を分離して飼育する。
3. 感染牛を繁殖に使わない。
 - ・感染牛の血統を残したいときには、その牛から採卵し、非感染牛に受精卵移植する。
 - ・感染牛の子牛には、陰性牛の初乳か、初乳製剤を給与する。
 - ・母牛の初乳を与える際は、確実にウイルスを不活化（加温もしくは凍結）させる。
4. 出血を伴う処置に用いる器具は連続使用しない。
 - ・直検、注射、耳標や鼻環装備、去勢、除角、削蹄など。
 - ・器具は使い捨てにするか、1回ごとに洗浄・消毒する。
5. 吸血昆虫対策を実施する。
6. 作業は非感染個体から行う（出血を伴う作業、搾乳など）。



しかし、これらの優先順位が高いほど、実行困難なのが実情であり、現在のところ、取り得る方法は「摘発→コントロール／隔離／淘汰」となっています。

鳥取県の伝染性胃腸炎(TGE)の防疫対応について (第33回中国・四国地域病性鑑定協議会から)

平成27年度中国・四国地域病性鑑定協議会において、鳥取県での伝染性胃腸炎(TGE)発生時の防疫対応について報告がありましたので紹介します。

TGEは豚流行性下痢(PED)と同じく、水様性下痢を主徴とする豚の急性伝染病です。すべての日齢の豚が発症し、特に若齢豚で症状が重篤化しやすく、哺乳豚での死亡率が非常に高いことが特徴です。散発的ながら、全国で発生が報告されています。

今回のケースは、母豚800頭程度の種豚農場での発生でした。平成26年8月に、哺乳豚に水様性下痢と死亡数の増加が認められ、病性鑑定によりTGEと診断されました。当初、TGEの発生は分娩豚舎のみでしたが、しばらくして母豚舎および子豚舎にも発生が見られました。その後、TGEの発生は一部の肥育豚舎でも確認されていましたが、11月にはTGEが原因と思われる下痢は見られなくなりました。疫学調査では、県内での発生が最近見られず、この農場は他県への出荷や導入が多いことから、県外からTGEウイルスが持ち込まれた可能性が高いと考えられました。

今回行われた衛生対策は、以下の5つです。

- ①適切なワクチン接種
- ②豚舎ごとの長靴交換
- ③農場および畜舎出入り口の消石灰散布
- ④豚舎ごとの管理者設置および豚舎間の従業員移動制限
- ⑤育成豚の出荷については、TGE終息まで自粛

TGEは鳥取県では平成11年以降発生がなく、香川県でも今まで発生報告はありません。しかし、この衛生対策は、TGE以外の疾病にも有効です。ぜひ参考にしてください。

豚に異状がみられることがありましたら、最寄りの家畜保健衛生所までご連絡ください。

飼料用米(モミ米)の栄養価について

すでにご承知のとおり、現在、飼料用米の利用拡大を国策として進めています。飼料用米を利用する畜産農家の皆さんにとっては、品種や施肥条件による栄養価の変動が気になります。

そこで、平成26年度に農試と畜試が連携して、主要品種のホシアオバと今後有望な3品種の専用種のモミ米について、施肥量の違いによる栄養価の調査をしましたので、その概要をお知らせします。

＜施肥量の違いによる飼料用米専用種の組成と栄養価＞

(水分:原物中、他成分:乾物中)

品種名	早晚性	試験区分	組成						栄養価		
			一般成分(%)						TDN ²⁾ (%)		
			水分	粗蛋白質	粗脂肪	NFE ¹⁾	粗繊維	粗灰分	牛	豚	鶏
ホシアオバ	中生の早	多肥	15.2	6.8	2.0	78.7	8.1	4.3	80.9	77.7	78.8
		標肥	14.2	6.6	1.9	79.8	7.0	4.7	81.3	78.3	79.4
ゆめさかり	早生	多肥	15.4	8.2	1.6	80.6	5.6	4.0	82.3	79.8	81.0
		標肥	14.2	7.3	1.8	81.3	5.6	4.1	82.7	80.0	81.2
夢あおば	早生	多肥	14.9	6.5	2.1	77.9	9.5	4.1	80.1	76.7	77.8
		標肥	14.4	6.4	2.0	77.8	9.1	4.7	79.8	76.5	77.6
中国217号	中生の早	多肥	15.2	6.7	2.0	77.7	9.7	3.9	80.0	76.6	77.7
		標肥	14.8	6.7	2.0	78.1	8.8	4.5	80.2	77.0	78.0
平均		多肥	15.2	7.0	1.9	78.7	8.2	4.1	80.8	77.7	78.8
		標肥	14.4	6.8	1.9	79.2	7.6	4.5	81.0	77.9	79.0
日本標準飼料成分表(2009)		モミ米	13.7	7.5	2.5	73.7	10.0	6.3	77.7	74.2	75.3
		トウモロコシ	14.5	8.8	4.4	83.4	2.0	1.4	93.6	94.5	91.0

1) 可溶無窒素物(NFE)¹⁾はほぼ消化される糖質、可消化養分総量(TDN)²⁾は、一般成分組成×日本標準飼料成分表消化率(牛・豚・鶏)から算出。

2) 施肥(窒素成分kg/10a)は、標肥:8.0-6.0、多肥:10.0-8.0(左から基肥-出穂20日前)とした。

3) 平成26年度水田有効活用研究開発事業(農試)及び飼料用米活用試験研究事業(畜試)の結果から引用。

＜調査結果＞

乾物中の粗蛋白は6.4~8.2%、粗脂肪1.6~2.1%、粗繊維5.6~9.7%、粗灰分3.9~4.7でした。

可消化養分総量は、全区で日本標準飼料成分表(2009)の数値を上回り、モミ米は豚と鶏に対して高評価の飼料となりました。今後も飼料資源の活用には、栄養価を把握することが重要であるため、玄米にも対応した飼料用米の分析体制を構築し、畜産農家の皆様に情報を提供する予定にしています。

抗菌剤・駆虫薬は正しく使って記録を残しましょう

抗菌剤・駆虫薬などは、使い方、使用量、休薬期間などを守って使用しなければいけません。出荷した乳・肉・卵・蜂蜜に残留基準値を超えた残留があった場合、回収や廃棄の対象となり、損害は農家負担です。

平成26年度および平成27年度には、県内産の鶏肉等に飼料添加剤の残留がみられた事例がありました。

抗菌剤・駆虫薬等の使用に際しての

注意!



- ◎ 飼料タンクや給餌ラインは、飼料の切替え時に前の飼料が残っていないことを確認する
- ◎ 動物用医薬品指示書の指示のとおり使用する
(対象動物 / 用法 / 用量 / 投薬期間 / 出荷制限期間あるいは休薬期間)
- ◎ 書類や伝票を保管する
 - ・ 動物用医薬品指示書や出荷制限期間指示書
 - ・ 動物用医薬品の購入伝票、飼料の購入伝票
- ◎ 使用記録をつけて保管する
(使用年月日 / 使用場所 / 対象動物 / 薬品名 / 用法・用量 / 出荷可能日)

* 記録の保管期間: 牛 8年間、その他の家畜 3年間

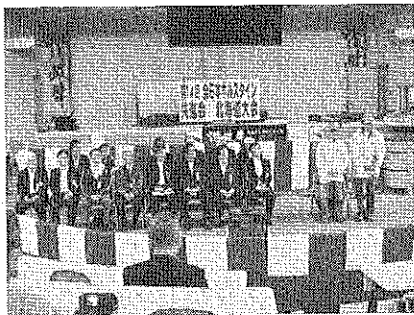
第14回全日本ホルスタイン共進会県勢健闘

第14回全日本ホルスタイン共進会が平成27年10月23日～26日の4日間、北海道勇払郡安平町早来新栄にて盛大に開催されました。出品頭数は、ホルスタイン種344頭、ジャージー種30頭の合計374頭で最高位賞を目指して競いました。

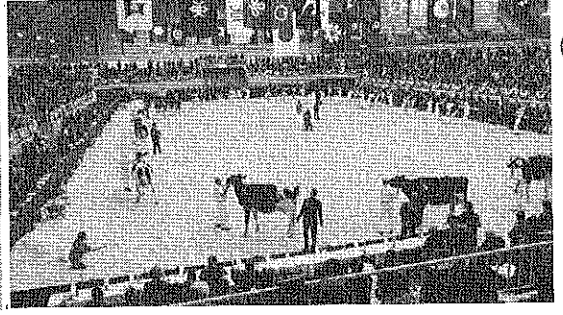
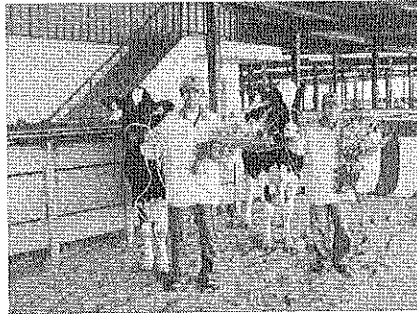
本県からの出品は、三木町の石川拓氏とまんのう町の三井利広氏のホルスタイン種2頭で、出品牛の受賞結果は次のとおりです。

第14回全日本ホルスタイン共進会

部別	区分	名号	生年月日	出品者	受賞結果
第3部	未経産 16月以上18月未満	SP テラモト リーサ	H26.4.24	木田郡三木町 石川 拓	2等賞
第8部	経産 30月以上36月未満(2歳シニア)	クイーン スプラツシュ バーチ	H25.3.11	仲多度郡まんのう町 三井利広	1等賞



家畜市場での壮行会



全共会会場の様子

<お知らせ>

○第79回香川県畜産共進会の日程

開催月日	部	開催場所
11月6日(金)、7日(土)	肉豚審査	香川県畜産公社
11月11日(水)、12日(木)	乳用牛、肉用種牛審査、表彰	香川県家畜市場
11月22日(日)	知事賞授与式	サンメッセ香川
12月2日(水)、4日(金)	肉牛審査	坂出食肉地方卸売市場

○さぬきうまいもん祭り 「食の大博覧会」

11月21日(土)、22日(日) サンメッセ香川2015

※22日には、香川県畜産共進会等の知事賞授与式もあります。

○平成27年度 家畜商講習会を開催します。

日 程：平成27年12月17日(木)・18日(金) 午前9時～午後5時15分

場 所：香川県庁 高松市番町四丁目1-10 本館12階 第5会議室

受講手数料：3,200円(県収入証紙)と、別途テキスト代が3,500円必要です。

受付期間：平成27年11月2日(月)～24日(水)。郵送の場合は締切当日消印有効です。

申込書配布先：県内の各家畜保健衛生所、各農業改良普及センターにあります。

また、香川県庁畜産課HPからダウンロードできます。

<http://www.pref.kagawa.lg.jp/content/etc/sec/sec16500.shtml>

お問合せ先：香川県農政水産部畜産課 総務・経営グループ 中村 TEL：087-832-3430